

【配点】

- ① 各1点×10
- ② 各2点×12
- ③ 1・5
- ④ 4・7
- ⑤ 3・6・8
- ⑥ 各6点×5
- ⑦ その他各4点×9

1 X
ネガ Y
ただのもの Z
イ

2 A ウ B ア C エ D イ 3 実世界との

(完答)

4 医者 は 「男」、看護師 は 「女」とい
う よう に、特定の職業と性別を結び
つけて 考 え る と い う も の 。

(同意可)

5 I ア II ケ III ウ IV カ 6 エ

(順不同・完答)

(順不同・完答)

7 AIは言葉から言葉を生成して短歌を作るが、歌人は実世界の事物
や感覚から着想を得て短歌を作る。

(同意可)

2 1 B 2 えりくー ト 8 E

(「極め」葉樹「も可)

(完答)

3 かなしい 生存競争に負けてかろうじて弱くしか生きられないこと。
いとしい かろうじて弱くしか生きられなくてもけなげに生きていること。

(完答・同意可)

4 一目 5 木から雫が肩に落ちてきた

(同意可)

6 一列に並んだえぞ松が、倒木の上
に 生育したものだとい う 確かな証
拠が ないこと。

(同意可)

7 ア

8 ぜひとも見たいと思っていた倒木更新の様子をすべて自分の目で
見ておきたかったから。

(同意可)

3 1 ① 簡単 ② 改善 ③ 奮起 ④ 清算 ⑤ 意外
⑥ 予期 ⑦ 明白 ⑧ 調節 ⑨ かって ⑩ ぎょうそう

2 ① 登 ② 利 ③ 友 ④ 石 ⑤ 魚 ⑥ 白 ⑦ 足

※1 問6 ア・イ 「実世界の事態」は「実世界の实体」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。申し訳ございませんでした。

1

- 1 X：よく出る外来語なので覚えておこう。対義語は「ポジティブ（積極的な・楽観的な）」である。Y：「ただだ」は形容動詞の一部ではなく、名詞に断定の助動詞がついた形なので、「ただな」とは活用しない。Z：何が「日本語話者が形成する世界が持つ価値観の表出」を見るためにつくった作品か、と考えながら文章をさかのぼっていきこう。「穴埋め式」世界ことわざ辞典」という作品」と書かれていることもヒントである。
- 2 (A)は「間違い」を生んでしまう場合も十分にありうる」とことと「大阪」となる世界がとても小さな可能性として見えている」ことが並べられている。(B)は本の内容にちなんだ表現をA Iで穴埋めすると、ネガティブな表現が並んでしまったことに対して、そのような結果が得られるのも「言語モデルが生成したおかげ」と好意的に受けとめている。(C)は「言語モデルがジェンダーバイアスを持っているかのように見える」具体例を、「言語モデルは学習データに潜んでいるバイアスを再現することがある」とまとめている。(D)は「海外のことわざの穴埋め問題を解かせる」ことの例として、「美しいものが美しいのではない、好きなものが美しいのである」ということわざを挙げている。
- 3 A Iの言葉の処理についての問題点は文章の後半で書かれていた。「記号接地問題」の観点から考えると、A Iが生成する言葉には「実世界にある実物との対応やその感覚」が結びついていないのである。
- 4 医者と看護師を使った例については、「さてここで」から始まる段落に書かれていた。指定の字数に合わせて速くしていねいにまとめていこう。
- 5 A Iは日本語の自然な表現を再現するので、 「 」なものが美しいのである」の穴埋めにも日本語の自然な表現の元にある価値観が反映されていると考えられるのである。I・IIには「劣ったもの」に通じるアの「だめなもの」とケの「バカなもの」が、III・IVには「世間の流れ」や「間違えないようにする」ことに通じるウの「もつともなもの」とカの「たしかなもの」がはいる。
- 6 アは記号接地問題を説明したものでA Iに与える身体性にはふれていないので誤りである。イはそもそも記号接地問題の解析にA Iを用いるものではないので誤りである。ウは本文においてA Iによる事物や感覚の再現までは説明されていないので誤りである。エにおいて問いの「身体性」という言葉が「人間の感覚」に意味が通じることもおさえておこう。オは「A I独自の視点」がおかしい。本文に書かれているのは「部分的に私たちの感覚を模倣すること」である。
- 7 A Iの特徴については——線部⑤を修飾する形で説明されていた。歌人がどのように短歌を作るかは、「言葉から…」の短歌が直前の記号接地問題の話の具体例に当たることや、短歌中の「アボカドの種芽吹くのを待つ」がどのような態度かを考えてまとめよう。
- 8 ——線部⑤を含む一文に「歌集のあとがきでは：A Iとの対比についても言及されています」とあるので、この短歌もA Iと対立する立場で詠まれていると考えられることからEが誤り。「発展に期待している」とあるのも、この部分からは判断できない。

2

- 1 (B)には、並列を表す「そして」がはいる。ここでは精英樹と比べて「凡庸」に見える木々と「虚弱劣級木」が並べられているのである。
- 2 直後を読み進めると、「えりすぐられた一本のエリートは、文句なくみごとである」と書かれている。——線部についての問題を解くときは、——線部が含む一文からその前後の内容をしっかりとおさえよう。
- 3 「かなしい」につながるマイナス面は直前の「辛うじて弱く生きている虚弱劣級木」から読み取れる。そのような弱く劣ったものを「いとしい」と思うのは、弱いものにけなげさやいらしさを感ずるからである。
- 4 ③の前にある「あの時の話」というのが、文章冒頭に出てくる「えぞ松の倒木更新」の話を指している。また、「どんなうっかり者にも」が「どんなに知識のない人にも」と同意であることや、答えの「一目(で)」の直後が「(ああこれが倒木更新だ、)とわかる」と ③でわかる」が同じ表現であることも対応させて答えをしばらくこむことができる。
- 5 「音」が「雫が落ちたときに立てる音」であることをおさえて、「肩を訪れる」とはどういうことを説明しよう。
- 6 「いささかもの足りなかった」というのは、同じ段落に書かれていることに対する筆者の解釈である。直前だけでなく段落全体をふまえて答えを作る。
- 7 筆者は木に自分をはじめとした人間の姿を重ねていることを読み取りたい。無惨な姿をさらす倒木に生を感じるの、自分の人生の先にある死を意識しているからである。
- 8 問6にも出てきたように、見たいと願っていた倒木更新を、確かな証拠までそろった状態で見ることができたので、いいところも悪いところもすべて見つくそうとしているのである。

3

- 1 ①「簡単」は「簡」のたけかんむりを忘れたりくさかんむりにしたりしないようにしよう。②「改善」は「善」のたて棒を口の上の横棒までつらぬくように書く。③「奮起」は意気や勇気を奮い起こすこと。「奮」の字形に気をつけよう。④「清算」は「精算」や「成算」などの同音異義語と取り違えないように、⑤「意外」は「以外」といった同音異義語と取り違えないように気をつけよう。⑥「予期」は予想と同じ意味である。「期」という漢字にはあらかじめ期待や覚悟をするという意味がある。⑦「明白」とははっきりしていて疑う余地のないこと。⑧「調節」は「節」の字形を「筋」の「月」や「力」としつかり書き分けよう。⑨「勝手」は他人のことを考えずしたいように振る舞うことその他にもいろいろな意味がある。ここでは内部の事情や様子のことである。⑩は「形」を「ぎよう」と読む。他に「形」を「ぎよう」と読む熟語には「人形」がある。
- 2 ①「登竜門」とは立身出世の関門。②「漁夫の利」とは両者が争っているうちに第三者が利益を横取りすること。③「竹馬の友」とは幼いころからの友達を表す。④「他山の石」はつまらない物事でも、自分が反省するきっかけにできるという意味。⑤「魚心あれば水心」とは、相手の出方次第でこちらの応じ方も決まるとのこと。⑥「白眼視」は人を冷たい眼で見ることや人に冷たいあつかいをすることを表す。⑦の「蛇足」はなくてよいものたとえである。